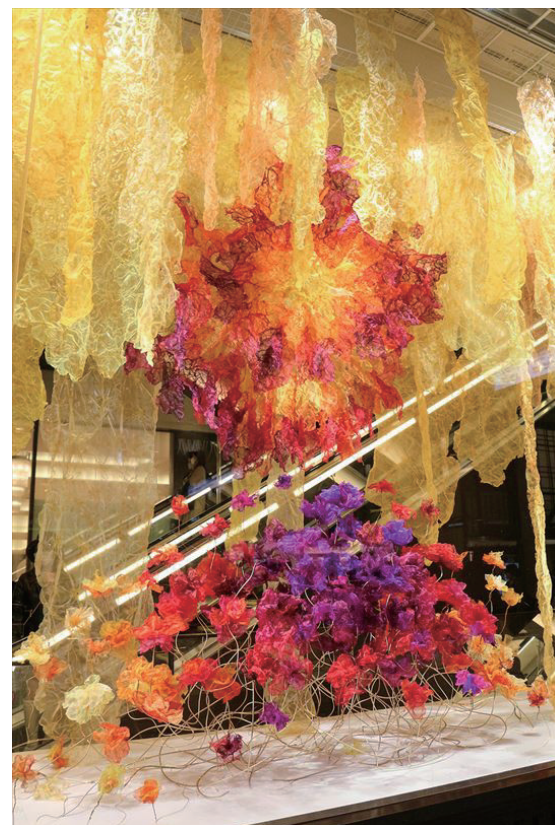


彷徨う身体  
wandering body

KUNST ARZT では、二度目となる明石麻里子の個展を開催します。  
明石麻里子は、オーガンジー生地を自在に加工し、  
心象を映し出すアーティストです。  
皮膚が裂けて内臓や血管が剥き出しになったようなイメージから、  
爆弾が炸裂した瞬間のようなイメージまで、オーガンジー  
だけで表現してきました。  
ただ、それらの強烈なイメージは、オーガンジー特有の透明感  
や軽さを内包しており、独特の美しさを感じさせます。  
演劇、ファッション展開のみならず、ショップも構え、TV メディ  
アへの露出も増えています。

(KUNST ARZT 岡本光博)



Sparkle 生命のかがやき  
2022

ポリエステル・ナイロンオーガンジー、真鍮  
6×4×1m

経歴

1996年 岡山県生まれ  
2019年 成安造形大学 芸術学部  
コスチュームデザインコース卒業

個展

2019年 『相関する心身』 Art Spot Korin  
2020年 『もっと、もっと叫びたい。』 Gallery Take two  
2021年 『inside』 KUNST ARZT

グループ展ほか

2019年 『成安造形大学 卒業制作展 2019』 京都市文化博物館  
2019年 ファッションショー 『SEIAN COLLECTION 2019』 京都市文化博物館  
2020年 『第二回全日本芸術公募展 大賞展・入選展 (佳作受賞)』 豊中市文化芸術センター  
2020年 『世界で一枚のシャツ展』 gallery サラ  
2021年 『Re:Home』 成安造形大学  
2022年 『HAPPY COMMUNICATION』 阪急うめだ本店 コンコースウィンドー  
2023年 『Cosmos2023 ~ 宇宙と生命と人類 ~』 (アート○美空間 Saga)  
2023年 toiro 第一回公演『クジラと少年』 舞台美術・衣装担当 (京都大垣書店 本店)

メディア

2022年 7月 27日 BS-TBS 『美しい日本に出会う旅』  
2023年 1月 23日 日本テレビ系列 『ヒルナンデス!』  
2023年 2月 25日 テレビ大阪系列 『おとな旅あるき旅』

2023年 9月 12日 (金) から 17日 (日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

彷徨う身体  
wandering body

アーティスト・ステートメント

化学繊維のオーガンジー生地を染色・加工し、人体をモチーフとした立体造形物やコスチューム等の制作を行う。内臓、皮膚、血脈など人体を構成する要素をモチーフとし、身体の内から溢れ出す情動や、揺らめく感情などの形のない精神性や深層心理を表現。

展覧会コンセプト

豊かで便利な私たちの社会は、近年益々発展している。なのに、私たちは何処か生きにくさを感じ、度々心と身体を壊してしまう。大きくなり過ぎた社会の中で多くの人が翻弄されていると感じる。私たちは膨大な他者との見えない繋がりの中に無意識に束縛され、自己と社会の境界を曖昧にしてしまう。それはまるで、形を見失い彷徨う身体ようだ。本展覧会では、身体の在るべき形を壊し、オーガンジー生地によるテキスタイル表現として新構築する。その中で人間の生物としての本質とアイデンティティを見つめ直す試みである。



共生  
2021  
ポリエステル・ナイロンオーガンジー、針金  
技法：分散染料・熱加工  
幅 36cm×高さ 80cm×奥行き 23cm

私たち人類の肉体も命も、本来自然の中から生まれたもの。肉体と精神を、改めて自然の一部へと立ち返らせる必要がある。人間を構成する要素である肉体と精神の関係性から、自然の中で生きる生命としての人の本質を表現したい。



neuron  
2023  
ポリエステル・ナイロンオーガンジー、針金  
高さ約 50cm×幅約 32cm×奥行き約 22cm

脳細胞とその神経回路は、宇宙の構造とよく似ているという。思考も感情も人格も、この世界を認識する全てが脳の神経系が作り出す物だとしたら、内なる宇宙はどれ程の神秘と可能性を秘めているだろうか。脳のわずかな電気信号が神経系の連なりとなって、星のように瞬いていたとしたら、それはきっと生命の輝きそのものだろう。この何処までも小さな脳内宇宙は、私達には目視し得ないが、確かにここにある。



Sparkle 生命のかがやき  
2022  
ポリエステル・ナイロンオーガンジー、真鍮  
技法：分散染料・熱加工  
幅約 6m×高さ約 4m×奥行き 1m

天から降り注ぐ光と、うねりながら力強く伸びようとする花々。自然の光と地上の生命の重なり合う様子は、自然界全体の"つながり"を表しています。光を受けて動植物が生き、その生命が次へ受け継がれていくことは命の"つながり"であり、魂が天へ上ってまた生まれ変わる輪廻転生も"つながり"と言えるでしょう。あらゆる循環の中で自然界が調和していき、生命を輝かせている。今ここで生きている私達も自然の中のひとつであり、絆と命をつなげていると感じるのです。